

第3回 契約監視委員会 議事要旨

沖縄科学技術大学院大学

1. 日時 2013年1月28日(月曜) 14時30分～16時30分
2. 場所 OIST キャンパス C-209 会議室
3. 出席委員 野里洋委員、多田敏明委員、楠茂樹委員、志村恵一郎委員、
清家孝行委員、滑川達委員 (欠席: 檜谷隆夫委員)
オブザーバー OIST 監事: 久保田治、松田浩二

4. 議事概要

(1) 審議案件の抽出について

楠委員が対象の160件から、契約方式別に8件の抽出を行った旨報告された。
(物品・役務 4件、工事 2件、単純随契 2件)

(2) 個別案件の審議について

① X線光電子分光分析装置 一式の賃貸借

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
1者入札のこのケースでは、入札額が予定価格に達しなかったため、同日に3回の入札を実施している。このようなケースでは、随意契約に切り替えて交渉するなどの方法が考えられる。結果は、同じになるかもしれないが、随意契約に切り替えた方が説明しやすい。	本件は、3社のリース会社にコンタクトしたが、信用調査に時間がかかるという理由で結果的に応札したのは1社となった。OISTでは、工事について入札は4回までとして運用している。一方、物品・役務については回数の上限を規定せず、落札するまで入札を行っている。研究者がその機器を必要とする時期(納期)要求に、調達部門として、できるだけ応えるようにしている。

<p>沖縄県では、同日の入札は2回までとしている。オプションとして、最安値の業者と随意契約を行うか、又は日を改めて指名入札を行うかの選択となる。サプライヤに対してプレッシャーをかけられる選択肢を持つことだ。</p>	<p>今後、合理性と説明責任の観点から、改善策を検討したい。</p>
<p>サプライヤに緊張感を持たせる工夫が重要だ。</p>	

② CS デジタル変調伝送システム用機器 一式の購入

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
<p>参考見積時の価格と応札価格とは、差額が大きい。AV 機器の業界には、参考見積は高い金額で提示し、実際の入札では低く提示する慣行があるのか？</p>	<p>慣行とは思わないが、競争的な環境により入札価格が下がったと考えられる。過去に、会議室に設置するプロジェクター等の入札を行ったが、今回と同じように業者間で厳しい競争となった。</p>
<p>工事と異なり、発注者が物品価格の妥当性を判断するのはなかなか難しい。できるだけ複数のサプライヤが参加する入札となるよう工夫することが方策だ。</p>	<p>—</p>

③ 火災保険 一式

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
<p>本入札は、台風によって想定される損害のレベルなど、OIST キャンパスを把握しないとわからないのではないか。つまり、前契約者が本入札に優位ではないか。</p>	<p>キャンパスや設備図面を Web で配付し、また、現地での施設案内を含む説明会を開催して、できるだけ公平な競争環境となるよう努めている。</p>

④ OIST 基幹環境整備(恩納キャンパス造園緑化その他)工事

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
低入札価格の調査議事録をみると、競争的な入札価格とした理由について、「OIST で、元請としての実績をつくりたかった」とあるが、今後、OIST での入札で今回の契約実績はこのサプライヤに有利になるのか。	この業務を通して、OIST の要望レベルを直接把握できるので、この点においてはこのサプライヤにメリットであろう。しかし、この契約実績は、公共機関の工事の入札参加資格には該当しないので、今後の公共工事入札で有利にはならない。若干の誤解があると思われる。
沖縄では、そのような誤解をしているサプライヤが多いのではないか。	機会を捉えて説明していきたい。

⑤ 化学物質管理システム構築業務

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
総合評価方式(OGVM)を採用した理由は？	本システムの担当部署の要請を基に、財務部門とコンプライアンス部門で判断を行った。
審査員会に要求元の責任者は入っているのか。担当しているだけに、サプライヤのことも詳しいのではないか。提案資料の業者名を隠して評価をするなど、中立性を維持しながら専門性を確保する方法を採っているか。	委員会については、できるだけ公正・公平な評価を行うことができるよう、財務担当副学長、財務のマネージャ、ユーザーとなるファカルティ、外部委員として琉球大のファカルティ、IT 部門のマネージャを委員に選定している。資料を見れば、企業名を推測できるので、提案資料の企業名は隠していない。
年間保守の項目で、評価結果にかなり差がついている。理由は？	評価の低かったベンダーは、提案資料に一部、条件を満たしていないと判断する記載があった。

⑥ センター棟厨房整備工事

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
設計・施工を一括で発注するとなると、予定価格の算出が難しいのではないかと。	本キャンパス全体の基本設計時に、厨房部分の厨房機器リストと配置計画を作成していた。よって工事費を見積もることができ予定価格を算出した。
厨房機器のサプライヤは、施工部分をどのようにして見積もっているのか。	OIST 工事を請け負った経験のある工事会社にコンタクトしているようだ。また厨房機器サプライヤは改修工事の経験が豊富であることから、過去の受注データから工事費の積算が可能と思われる。
技術点の評価について、委員3名の平均をとることが果たして有効なのか。土木でも難しい問題だ。合議制による評価点の決定方式も検討した方がよい。	複雑で大規模な事案では、合議制も採用している。
委員個人で採点する仕組みでは、具体的なルールを事前に設けておくことよ。例えば、委員間の得点差が、ある一定数値を超える場合、委員間で何か誤解が発生していないかを相互に確認する仕組みだ。	委員会では、お互いの評価結果をみて議論をしている。ルール化は検討したい。

⑦ 第3研究棟実験施設等設計その他業務

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
このJVの選定は問題ない。随意契約であるが、予定価格よりも5%くらい下がっている。どのような交渉をしているのか。予定価格を提示しているのか。	予定価格は提示していないが、本件は、概算要求の結果が新聞紙上に記載されているので、このJVはその内容を当然把握している。3棟目の実施設計なので、設計変更の度合いなど、これまでの当該JVの経験値が活かされたのではないかと考えている。

⑧ 法面对策工事(林道西側法面)

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
<p>先行工事業者から徴取した工法及び見積金額の妥当性について、他の業者に確認したとあるが、どのような方法で確認したのか。企業名を隠したのか。</p>	<p>企業名は出さずに他工事業者に、工法及び見積金額について、意見を照会した。</p>
<p>このケースは契約を締結するまでに4週間強の期間がかかっているが、緊急度が更に深刻なケースはどのように扱うのか。</p>	<p>緊急度に起因するリスクはOISTで判断する。予算制約を踏まえて決定する。</p>
<p>この手続プロセスで問題ない考える。</p>	<p>—</p>

(3) 次回の日程と案件抽出の当番委員について事務局から、以下の日程を説明し、了解された。

2013年7月 東京開催

次回の抽出に関する当番委員は、滑川委員の予定。

(野里委員→多田委員→楠委員→滑川委員→志村委員→樫谷委員→清家委員)

EOF